



神柱公園清掃活動の様子

今年で開校46年を迎えた都城市生活学校連絡会（生活学校）。開校翌年から45年間、会長として生活学校をけん引してきた有馬妙子さんが今年、会長職を勇退しました。

有馬さんは、戦前生まれの宮崎市出身で、戦後の混乱期に教壇に立ち、結婚・出産を機に退職。その後、夫の出身地である本市に移住しました。高度成長期を迎えていた日本は、環境問題が深刻化。本市も例外ではなく、河川の汚染や空き缶の投げ捨てなど、さまざまな問題を抱えていました。このような地域が抱える困りごとなどを、主婦の立場で持ち寄り解決していくと、有馬さんをはじめとする地域の女性らが一念発起。昭和48年、「公益財団法人あしたの日本を創る協会」の指導の下、生活学校を開校しました。

人の風景

Smiling faces of miyakonojo

当時、多くの主婦が悩んでいた添加物による食品汚染の問題については、食品表示の基準を学び知識を習得。その他、公園のごみ拾いや大淀川の水質浄化など、生活環境の改善にも取り組みました。また、夜間の救急医療体制の整備を求める運動や危険物の分別収集を求める運動など、さまざまな問題を提起したり、島津墓地（都島町）や天長寺（安久町）などの清掃活動を通して、文化財保護にも取り組んだりしました。

これらの活動が評価され、数多くの功労賞を受賞してきた生活学校。会長を務めていた有馬さんは平成29年、旭日双光章を受章しました。

「地元企業や行政など多くの団体が手を差し伸べてくれたことはもちろん、会員相互の絆や、なにより夫（俊夫さん・平成25年逝去）の協力があつたからこそ活動を続けられた」と感謝の思いを話します。「時代と共に変化する問題に、地域がどう向き合えばいいのか、苦慮することはあっても、この活動を苦しいと思ったことは一度もなかった」と振り返る有馬さん。「地域の人たちや、共に活動している仲間たちの喜ぶ姿を見ることが、私の生きがいであり、一



都城市生活学校連絡会
前会長

有馬 妙子 さん
(千町)

番の幸せ」と笑顔を見せます。

昭和から平成の約半世紀を、生活学校と共に歩んできた有馬さん。「長年続いてきた生活学校が、新会長を中心に、これからも地域に密着しながら、さまざまな問題に向き合い、解決していけるよう、見守りたい」と、これからの生活学校の活動に期待を込めていました。

生活学校運動45年！
女性の社会進出に貢献

